

週刊



赤旗 読者通信 改題

2023. 3. 19
通巻No. 1597

日本共産党
小矢部市委員会

市内七社 245
Tel 67-4322
Fax 67-4842

何でも
ご相談を



市議会議員
上田由美子
☎ 68-2106
Fax 68-2146



参議院議員
井上さとし



前衆院議員
藤野保史

禁無断転載
複写配布

3月定例市議会

おとぎの館を児童館に



上田由美子市議の一般質問①

3月議会でも上田由美子市議は10日、「旧おとぎの館を児童館として活用を」「指定管理者と消費税インボイス制度」「パートナーシップ宣誓制度を」「久利須野外緑地広場」「子育て世代へのお米引換券配布事業」について一般質問しました。今週号では「旧おとぎの館の活用」について紹介します。

児童館がないのは小矢部市と舟橋村だけ

【上田市議】富山県内には、市や町が設ける児童館が46施設あります。しかし、小矢部市は県内で児童館がない二つの自治体の一つ（もう一つは舟橋村）です。子どもがいつでも訪れて遊ぶことができ、親子で利用し子育ての行事を催すことのできる児童館が小矢部市に必要です。旧おとぎの館を児童館として活用することを検討してください。そして多くの市民や子育て支援団体が使用できるようにしてください。

児童館は児童福祉法第40条に規定する児童福祉施設の一つであり、18歳未満の児童を対象としています。児童の健全な遊び場の確保、健康増進、情操を高めることを目的とした事業を行う施設です。例えば、遊びを通じての集団的・個別的指導、中学生・高校生世代の育成・指導等です。

市民交流プラザはフル稼働

石動地区に開設されている小矢部市民交流プラザは、4つの施設が統合されたため、多くの団体が利用し、希望する日時に部屋を予約できないことがあります。コロナ禍から脱しつつあり市民活動が活発になるなかで、今よりもっと部屋の確保が困難になることが予想されます。

現在、小矢部市民交流プラザで子ども食堂や子どもの学習支援に取り組んでいる団体は、参加希望者が増えているのに部屋を確保できず、行事を拡大できない問題を抱えています。子どもや保護者、子育て支援団体が気兼ねなく使える児童館をぜひ小矢部市に開設してください。

「木曾義仲あれこれ」

年金者組合は3月6日、市民交流プラザで「木曾義仲あれこれ」と題して、地元歴史学習会を開きました。講師は小矢部市郷土史会の牧野潤先生です。

牧野先生は歴史書を根拠に、木曾義仲が世間知らずの田舎侍ではなかったことや、倶利伽羅合戦に至るまでの戦略をどのようにたてたか、「火牛の計」の歴史事実と虚構などを縦横に語りました。

火牛の計がロマンと聞いて驚いた

参加者の一人は「火牛の計はひとつのロマンだね」と聞いて驚いた。昨年秋に倶利伽羅古戦場を尋ねて、ガイドの方から「ここが火牛を解き放つて



旧おとぎの館は最適 クロスランドと一体に活用できる

旧おとぎの館は築26年です。耐用年数は38年なので、まだまだ十分に未永く使えます。

旧おとぎの館を児童館にすれば、平日の日中は不登校児の居場所や交流の場として利用できます。不登校児の保護者は、日中の運動不足を心配されるので、クロスランドのパターゴルフ場や広い芝生、遊具を容易に使える場所であることも利点です。

また、土日祝日や放課後に、児童の遊び場所として活用することも緊急に求められています。雨が降った日に、遊ぶ場所がないことで児童や保護者は困っています。「子ども食堂」として利用するためには、水道設備、調理器具、食器、冷蔵庫などを備える調理施設と食事場所が必要で。

子育て支援の様々な事業や行事をするために、ぜひ旧おとぎの館を活用し、小矢部市に児童館を開設することを検討してください。

子ども食堂、学習支援の場

「同じ場所で継続的に利用できる場所の確保は重要」 民生部長

【民生部長】児童館について、子ども食堂や子どもの学習支援の場としてその活動がより広く認知されるためには、同じ場所で継続的に提供されることが望ましい。また子どもや保護者が継続的に利用するためには活動を行う場所の確保は重要である。場所の確保としては、児童館に限ったものではないので、市が所有している公民館などの既存施設を有効活用していただきたい。子ども食堂など様々な子ども支援に利用できる児童館の開設ですが、旧おとぎの館のあり方については市公共施設再編計画の中でクロスランドおやべ周辺施設にかかる機能集約と合わせて改めて今後見直しを行う課題であると考えている。

【上田市議】機能集約は、いつ頃と考えているのか。

【総務部長】この段階で来年度とか具体的な年度を示せないが、いろんな諸条件が成熟してきた段階としか言えない。

平家軍を地獄谷へ落とした」と聞いたばかりだったので」と語りました。

倶利伽羅観光パンフレットに疑問

別の方は「木曾義仲が越中へ入ってくる経路をはじめて知った。親不知や日本海側を通り新湊から砺波を経て倶利伽羅へと攻め上がったと、牧野先生が地図を使って紹介された」と語り、昨年現地を訪ねた体験から次の疑問を寄せてくれました。「古戦場のあった場所は、奈良時代の古道、地獄谷を見下ろす険しい道である。小矢部市で作った倶利伽羅観光パンフレットで、疑問を感じるころがある。木曾義仲、軍兵3万から4万余騎、牛の角に松明を燃やして4,5百頭。はたしてその時代にそれだけの軍兵、牛がいたのだろうか？史実に合っていないような気がする。」

参加者がそれぞれ考えを深めるきっかけとなった学習会でした。